

ご近所の お医者さん

468

森口医院院長 **森口久子さん** 一守口市

病気や障害のある子

ピッカピッカの小学1年生。多くの子どもたちにとって小学校入学は何のことはない出来事の一つですが、疾病を持つ子どもたちや障害を持つ子どもたちにとっては初めて乗り越える壁でもありません。

ることが難しいことがあります。発達に偏りのある子どもたちは、クラスの友人に誤解されることがあります。頑張りたいうまく表現できなくてイライラを抱えることも多くなります。

置かれていないため、呼吸器を付けて通学する子どもたちの痰の吸引や、食事の口から取れない子どもたちの胃ろうへの栄養剤注入は、研修を受けた学校の先生もできることになっていきます。また、家族の負担を軽減するため「レスパイトケア」と呼ばれる一時的な短期入所も必要でしょう。

共に学ぶ場の充実を

差別解消法により、学校における合理的配慮

四肢に不自由のある子どもたちには段差が多く、エレベーターのない校舎は多くの困難が伴います。聴力や視力に不自由のある子どもたちには、一般校で十分な教育を受け

しかし、そのイライラは具体的な言葉かけや、絵で示して説明すれば随分落ち着くことをクラスメイトが学ぶことも重要です。

医療機関と自宅を行き来している子どもたちが、自宅から安定して学校へ通うためには、在宅生活を支援する近隣のかかりつけ医が必要です。医師は訪問看護師と連携し、学校での感染症対策や宿泊学習などの行事に対応します。今はまだ全ての学校に看護師が配

が義務付けられました。今後は養護教諭の複数配置や、学校看護師、スクールカウンセラーの配置を充実させることが望まれます。さまざまな個性を持つ子供と共に学ぶ環境は、互いへの理解と思いやりを生みます。多様性を受け入れられる社会は全ての人にとって快適で合理的であるはず。 「ノーマライゼーション」という言葉をぜひ覚えていただきたいと思います。

(府医師会理事)

